資料５－１

平成２８年度地域包括ケアの取組について

１　各地域での取り組み

（１）地域見守り活動について

町内福祉委員会　７９町内会設置

見守り活動　　７２福祉委員会で実施　　＊モデル地区実施分

（２）地域ケア個別会議

個別ケースの支援内容について、ケアマネ、介護関係者、医療関係者、地域の関係者等多職種で検討する会議。地域包括支援センターが開催する。

地区	開催回数（H29.2 末）
東山	１９回
安城北	２７回
篠目	１５回
安城南	８回
安祥	１８回
安城西	８回
明祥	１回
桜井	２４回
合計	１２０回

医師参加回数　８回（H27：4 回）

リハビリ専門職　6 回（H27：3 回）

（３）地域ケア地区会議（安祥・明祥除く）

地域ケア個別会議の積み重ねなどから地域の課題を挙げ、住民でできること、専門職でできること等対応策を検討し地域づくりや政策形成に結びつける。地域包括支援センターが開催。

地区	開催日	主な内容
東山 ○他地区と合同開催	１１月○	３地区合同で開催。ケアマネジャーの情報共有を行い、地域課課題を出す。
	１２月	地域包括ケアの理解と参加者の顔合わせ。
	２月	事例検討を通じ、それぞれの立場での支援を検討。

安城北 ○他地区と合同開催	８月	地域ケア関係者のお互いの活動内容を知り、それぞれの立場から地区課題を考える。
	１１月○	３地区合同で開催。ケアマネジャーの情報共有を行い、地域課課題を出す。
	１月	事例を通じて地域でできる支援、公的支援を検討。
篠目 ○他地区と合同開催	１０月	事例を通じて篠目地区を考える
	１１月○	３地区合同で開催。ケアマネジャーの情報共有を行い、地域課課題を出す。
	２月	事例を通じて地域住民、専門職ができることを検討
安城南	８月 １２月	事例を通じて地域住民と専門職ができること
安城西 ※一部の町で開催	４月※	認知症支援制度を知る
	６月※	見つかるつながるネットワークと安否確認
	７月	認知症に関する制度の周知と関係者の活動内容を理解する。
	８月※	福祉活動、個別支援活動について
	１０月※	個人情報の共有について
	１２月※	認知症カフェ、サロン、災害時要援護者の見直しについて
	２月	地域で集える場所つくりについて
桜井 ※専門職中心	６月※	民生委員と専門職の連携
	８月※	住まいについて考える
	９月	要支援の人の困りごとや不安、支援方法
	１０月※	福祉委員会の活動を知る
	１２月※	地域ケア個別会議について
	１２月	町内でできないことへの解決策
	２月※	訪問歯科診療について、住民と専門職との連携

（４）成果

すべての地区で、医師、歯科医師、薬剤師、介護関係者、地域住民が参加し、医療、介護を含めた話し合いができている。

多様な問題点が表面化されている。

（５）課題

多様な問題点が表面化されている分、地域の課題を明確にすることが難しくなっていて、対応策を検討するに至っていない地区が多い。地域ケア地区会議の運営に工夫が必要。

２　地域ケア推進会議

（１）開催回数　　１２回（毎月開催）

（２）参加者　１４の部会から代表者２名

（３）参加部会

病院、医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーションネットワーク、訪問リハネット、ケアマネット、デイネット、ヘルパーネット、施設、グループホーム、保健福祉、地域支援（民生委員・町内会長）、住まい

（４）主な検討・協議内容

・ＩＣＴを活用した情報共有システム「サルビー見守りネット」の導入と運用
・見つかるつながるネットワークの運用と周知
・訪問歯科診療申込書について
・在宅医療、看取りについて
・施設の看取りについて
・高齢者見守り協定について
・認知症施策について（認知症カフェ、ケアパス、捜索模擬訓練等）
・総合事業について

（５）各部会主催による研修会の開催

内　　容	主催した部会
在宅における中心静脈栄養について	病院
エンド・オブ・ライフケア	医師会
地域包括ケアにおける病院の役割 ～安城更生病院と八千代病院の現実を知ろう～	病院・医師会
摂食嚥下と口腔ケア	歯科医師会
薬剤師の認知症初期対応能力向上（基礎編、応用編、制度編）	薬剤師会

医療にかかわる社会保障・福祉制度について	訪問看護
要介護度の高い人への多職種連駅を考える	訪問リハネット ケアマネット
軽度要介護認定者が自分らしい生活を取り戻すための支援	
地域との事業所（施設)とのよい関係づくりの方法	デイネット
コミュニケーション能力・技術	ヘルパーネット
高齢者施設従事者による虐待防止に向けて	施設
グループホームが求められている本来の目的、認知症支援の講話と他介護施設との連携 グループホーム	グループホーム
徘徊ネットワークの仕組みについて学ぶ	
精神疾患を抱える人との関り方	保健福祉

（6）部会ごとにテーマについて検討

部会名	検討テーマ
病院	緊急時の受入
医師会	在宅診療実施医を増やすには
歯科医師会	迅速な連携について
薬剤師会	薬剤師の認知症対応能力の向上
訪問リハネット	他部会との連携の強化
訪問看護	訪問介護・訪問リハビリ・訪問看護の連携について 歯科医師との連絡票の作成
ケアマネット	①見つかるつながるネットワークの利用の周知 ②介護保険制度運営上の問題点 ③主治医⇔ケアマネ連絡票の作成について ④歯科医師⇔ケアマネ連絡票の作成
デイネット	①「地域とのつながり方」の検討 ②総合事業への参入について
ヘルパーネット	①訪問介護・訪問リハビリ・訪問看護の連携について ②総合事業への参入について

施設	災害時の対策
グループホーム	①地域の認知症をサポートする支援の取組について ②各グループホームで困っていることについて
保健福祉	地域で取り組む移動支援

（７）成果

ア　顔を合わせる機会が増え、顔の見える関係づくりが出来ている。また、業務以外で交流する機会が増えている。（例：デンパーク駅伝、研修会打ち上げ等）

イ　研修会を各部会で企画することで、多岐にわたる研修を開催できる。

３　生活支援体制整備

（１）生活支援ネットワーク会議の開催

各中学校区で１～２回開催

（２）マッチング交流会＆サロン博覧会の開催（１回）

（３）あんじょうコミュニティＢＯＯＫの作成

（４）地域見守り協力店

８中学校区で展開できるよう準備中

４　認知症・高齢者見守り事業

（１）高齢者見守り事業者ネットワーク事業

１７の民間事業者団体と協定

（２）見つかるつながるネットワーク

登録者：４８名（在宅：３９名、施設：８名、廃止：２名）＊H29.3.10 現在

行方不明件数（市に連絡があった件数）７件（うち４件は事前登録者）

（３）徘徊高齢者捜索声かけ模擬訓練の実施

８中学校区で開催

（４）認知症カフェ立ち上げ支援

（５）広報あんじょうに特集記事を掲載

８月１５日号に掲載

（６）認知症サポーター養成講座（H29.2 末）

開催回数：２６回　　受講者数：８５６人

（７）認知症初期集中支援チーム（H29.2 末）

相談件数：４２５件　チーム員会議：９回

資料５－２

平成２９年度　地域包括ケアの事業計画について

１　地域での取り組み

（１）地域見守り活動の推進

（２）介護予防・生活支援に関する住民活動の強化と創設

（３）地域ケア個別会議の充実（医療職の参加の推進）

（４）地域ケア地区会議の充実

（地域課題の検討から地域の活動や事業化や専門職の支援等につなげる）

２　地域ケア推進会議の開催と各部会の活動

（１）開催回数　１２回開催（毎月１回開催）

（２）参加者　１４の部会から代表２名

（３）各地区の地域ケア地区会議から提案された課題について検討

（４）各部会主催による研修会の開催

（５）各部会でテーマについて検討

３　主な取り組み

（１）安城市医療・介護・福祉ネットワーク「サルビー見守りネット」の活用の推進と近隣市との連携

（２）在宅医療に関する普及啓発

①介護・福祉職への啓発

②市民への啓発

（３）認知症施策の強化

①認知症初期集中支援チームの活用と連携

②認知症カフェの充実

平成２９年度に新規開催予定

③認知症高齢者捜索・声かけ模擬訓練の実施

各中学校区にて開催予定

④見つかるつながるネットワークの推進

⑤認知症サポーターステップアップ講座の開催

（４）地域における介護予防事業の充実

町内会健康体操教室をはじめとする地域の介護予防に資する活動への支援

（５）こども、障害者を含めた地域包括ケアシステムの構築に向けた検討